



Seiji Togo Memorial
Sampo Japan Nipponkoa
Museum of Art

News Release

田中美穂
船井美佐
青木恵美子
竹中美幸

Quintet IV

Five-Star Artists
クインテットIV 五つ星の作家たち

2018年1月13日[土]—2月18日[日]

●休館日：月曜日（ただし2月12日は開館、翌13日も開館） ●開館時間：午前10時—午後6時 ※入館は午後5時30分まで
●観覧料：一般800円（07歳以下、小学生以下無料）、中学生以下無料 ※07歳以下は20名以上の団体料金
●07歳以下小学生未満観覧料：詳細は公式ウェブサイト（観覧料）を参照してください。●観覧料は現金でのみ受付いたします。
●土曜：東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、朝日新聞社 ●協賛：損保ジャパン日本興亜

東郷青児記念
損保ジャパン日本興亜美術館
Seiji Togo Memorial Sampo Japan Nipponkoa Museum of Art

東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館

クインテットⅣ－五つ星の作家たち

QuintetⅣ: Five-Star Artists

開催のご案内

このたび東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館は、継続的な作品発表実績があり、将来有望な中堅作家5人を選び、「クインテット」（五重奏）と題するシリーズ展覧会を開催いたします。

本展は、シリーズ企画第4弾として、青木恵美子、竹中美幸、田中みぎわ、船井美佐、室井公美子の近作・新作約80点を展示します。第1回、第2回は「風景」、第3回は「自然」がテーマでしたが、今回のテーマは「具象と抽象の狭間」です。ポール・ゴーギャンは「芸術とはひとつの抽象なのだ」と言明し、絵画に思想・哲学的要素を取り入れました。5人の作家たちは、ゴーギャンの革新性を無意識に踏襲し、理知的な線と感覚的な色彩とを組合せ、世界を写すことと自己を表出する振幅の中で制作しています。

私たちと同時代に制作された、手法と環境も異なる5人の作品を見ることは、「時代精神」に立ち会うことにほかなりません。具象と抽象の狭間の深い闇の中で光を求めて彷徨い続けているのが現代作家たちであり、私たち自身でもあるのです。絵画の前に佇むことで、私たちの心に奏でられる五重奏は、爽やかな「残響」としてしばらく留まることでしょう。

開催要項

【会 期】2018年1月13日(土)－2月18日(日)

【休 館 日】月曜日（ただし2月12日は開館、翌13日も開館）

【開館時間】午前10時－午後6時（入館は午後5時30分まで）

【観 覧 料】一般：600円、大高生：400円、中学生以下無料 ※20名以上の団体は各100円引き

【主 催】東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、朝日新聞社

【協 賛】損保ジャパン日本興亜

アーティスト・トーク（各作家30分）

1月13日(土) 午後2時～ 船井美佐・室井公美子・田中みぎわ

1月20日(土) 午後2時～ 竹中美幸・青木恵美子

● 出品作家紹介

青木 恵美子（あおき えみこ）



1976年 埼玉県生まれ。2007年 「第6回奄美を描く美術展」奨励賞受賞。2010 多摩美術大学大学院美術研究科油画研究領域修了、「シェル美術賞展2010」本江邦夫審査員賞受賞。2012年 第27回ホルベインスカラシッパ奨学生。2017年 「FACE展2017」グランプリ、オーディエンス賞受賞、「VOCA展2017」佳作賞、大原美術館賞受賞。



青木恵美子 《INFINITY Blue No. 6》2017年
53×65.2cm アクリル・キャンバス

パレット上で筆触によって固められたアクリル絵具の花弁を画面に貼り付けたレリーフ作品で、同系色の数種類の花弁が、遠くから見ると抽象的な斑点に見える。題名には「無限大」の意味があるが、作品と観者との距離によってイメージが変幻する他に類のない個性的な作品であり、その解釈と魅力も無限大に広がっていく。

竹中 美幸（たけなか みゆき）



1976年 岐阜県生まれ。2001年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業、「ノキアアートアワードアジアパシフィック2000」アジア第3位。2003年 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了、「TAMA・デ・アート2003」パルテノン多摩賞受賞。2010年 「トーキョーワンダーウォール2010」ワンダーウォール賞受賞。2011年 「第4回アーティクル賞」準グランプリ受賞、「第6回タグポートアワード」リキテックス賞受賞。2012年 「シェル美術賞展2012」島敦彦審査員奨励賞受賞。



竹中美幸 《光ノ闇（部分）》2015年
130×20×h226cm 35mm フィルム、アルミ板、他

竹中は一貫して「透明性」に拘り、光と影をとらえ、光が透過することで新たに出現するイメージを追っている。35mm フィルムを感光することで色をつけ、それらを重ねている。通常見えない光が、変色したフィルムで形となり、重層化することでイメージが創生され、そこには「目には見えないが見えるものより大切なもの」を宿すようにしている。

田中 みぎわ (たなか みぎわ)



1974年 東京都武蔵野市に生まれる。1995年 安宅賞受賞。1997年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。1999年 東京藝術大学大学院修士課程美術研究科日本画専攻修了、沖縄県石垣市に滞在（～2000年）。2003年 熊本県菊池市に滞在（～2005年）。2005年 東京都武蔵野市に滞在（～2007年）、「VOCA展2005」府中市美術館賞受賞。2008年 神奈川県茅ヶ崎市に滞在（～2010年）。2010年 神奈川県南足柄市にアトリエを開設、南足柄市と熊本を制作の拠点とし現在に至る。



田中みぎわ《水の音》2012年

35×51.8cm 墨・胡粉・雲肌麻紙

田中の描く行為は彼女の自然への敬愛から始まる。自然と一体化し、自然に包まれる感覚を大切にする。ドーサ（ミヨウバンと膠）や胡粉を引いた麻紙の上に水を引き、墨を落として滲みをつくることで木々や水紋を描き、形態をゆがませる「抽象化」が行われる。輪郭が曖昧になることで、眼前の風景の湿度や、風向き、水の流れ、作家の心情などが立ち現れる。

船井 美佐 (ふない みさ)



1974年 京都市に生まれる。1992年 京都市立銅駝美術工芸高等学校日本画コース卒業。1996年 京都精華大学美術学部造形学科日本画科卒業。2001年 筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了、筑波大学芸術研究科長賞受賞（修了制作作品学校収蔵）。2002年 「第13回関口芸術基金賞展」大賞受賞、（作品買上、NY6ヶ月研修）。



船井美佐《楽園／境界》2014年

サイズ可変 鏡、顔料、木 撮影：木奥恵三

鏡（アクリルミラー）を切り抜いた「桃源郷」は、鏡に観者が映り、物質と非物質の境界が不鮮明になり、空間を意識した作品である。船井は「鑑賞者が絵の一部になるような空間」を意識して制作している。平面、レリーフ、立体と大きな振幅の中で制作を展開し、生と死など人間の存在の意味や、理想である楽園イメージなどを表現している。

室井 公美子 (むろい くみこ)



1975年 栃木県生まれ。2005年 「群馬青年ビエンナーレ2005」奨励賞受賞、第20回ホルベインスカラシッパ奨学生。2007年 東京造形大学美術学科絵画卒業。2009年 東京造形大学大学院造形研究科美術研究領域修了、「2008年度ZOKEI展・東京造形大学大学院修士論文・修了制作展」ZOKEI賞。2012年 「第31回損保ジャパン美術財団選抜奨励展」秀作賞受賞。2015年～ 東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース専任講師。2016年 「第52回神奈川県美術展」特選。2017年 「第53回神奈川県美術展」特選。



室井公美子 《Anima》2016年

227×227cm 油彩・キャンバス

室井は「感じていること、気になる物事、急に思い出した彼方の記憶」をパズルのように組み合わせた独自の景色を描く。偶然にできる絵具のしみや滴りに息吹を感じ、その生命を宿したような形と色に導かれ、次のイメージに繋げていく。室井は、絵を描くことを「見たい風景を見たいがために画面を旅する」行為だという。

● 展覧会図録

東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館発行、A4 形 100 頁、1500 円（税込）

1. 「出品作家たちの輝き（仮題）」（本江邦夫）
2. 「出品作家たちの視座：具象と抽象の狭間」（五十嵐卓）
3. 「『クインテットⅣ』座談会」（青木恵美子、竹中美幸、田中みぎわ、船井美佐、室井公美子）
4. 作家エッセイ（青木恵美子、竹中美幸、田中みぎわ、船井美佐、室井公美子）

—本件に関するお問合せ先—

【「クインテットⅣ」展覧会広報事務局】（ウインダム内）

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-28-9 ヤマナシビル

e-mail : sjnk-m-pr@windam.co.jp TEL : 03-6661-9447 FAX : 03-3664-3833

担当：新山（しんやま）、橘川（きつかわ）